



ことば



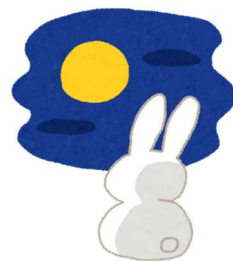
「ことば」の教室だより

2学期がスタートしました！どんな夏休みだったかな？

学年	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
人数	3名	5名	4名	2名	2名	0名	16名

2学期の「ことばの教室」スタートは、2年生が1名増えて、16名でのスタートです。

夏休み明けの通級は、少し久しぶりでしたが、どの子も元気にことばの教室に来てくれました。今年の夏は、本当に暑くて、私の家のクーラーがまったくいうことを効かなくなるという事件がありました。みなさんは、夏バテなどしなかったでしょうか。2学期にそれぞれの学校に登校できたこと、また、ことばの教室にも通ってきてくれたことが本当にうれしいです。ことばの教室では、「夏休みの出来事・思い出ベスト3」を聞いています。いろいろな体験や出来事があったんだなあ、それぞれの話を楽しく聞いているところです。いろいろな体験や経験が、ひとまわり子どもたちを成長させてくれたことを感じます。学習を始めると、調子よく発音トレーニングや体づくりの運動に取り組んでくれました。秋に運動会を控えている学校もあるなど、2学期はたくさんの行事があり、さまざまな成長のみられる時期です。「ことばの教室」でも、成長を見守りながら、支援、指導をしていきたいと思えます。どうぞ2学期もよろしくお願いいたします。



手をつかおう！ ～発音のスムーズさにつながる手先の運動～

「ことばの教室」の指導で、「パズル」や「ペグボード」、「アイロンビーズ」「お箸ゲーム」などをすることがあります。「発音のトレーニングや口や舌の練習をする教室なのになぜかな？」と思われるかもしれませんね。

実は、音を出す運動そのものが、動作として、他に例をみないほどのとてつもない速さと正確さを要求する、細かい、微妙な運動になります。舌の動きがほんのちょっと1～2ミリの狂いがでただけで、発音の間違いになります。ある意味、神業のようなすごい動作を私たちは、口の中で行っているんです。口の中で、そんな巧みな動きをしていると気付いた時に、口周りだけでなく、様々な体の動きを刺激していくことが、ことばの発達においてとても大切になってきます。体はしっかり動かせるけれど、手先が不器用な子は「ことばの教室」に来る子に多くみられます。手先をしっかり動かせるようになると、発音のスムーズさにつながります。

発達は大いところから小さいところへ

からだは大きい筋肉から小さい筋肉の順に発達していきます。ざっくりと体幹⇒足⇒手⇒指⇒口周りの順なので、手先がうまく動かせるようになると、くちびるや舌をうまく動かせるようになります。

目と手の連携がうまくできるようにすると

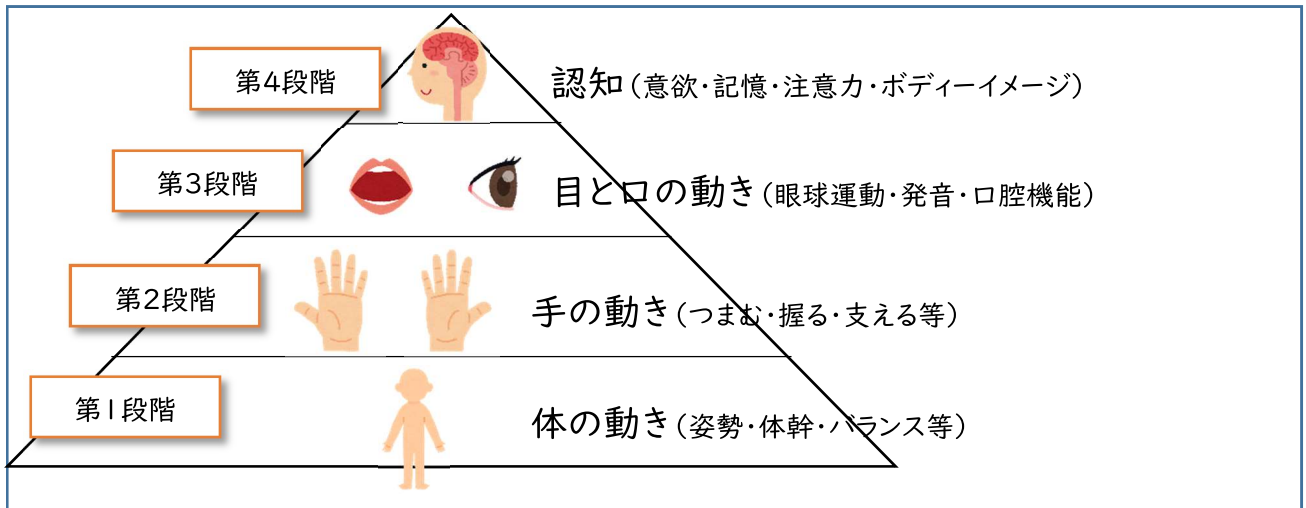
見ている場所に手をもってくることができると、思い通りに手を動かして、多様な動きができるようになっていきます。

手先の運動に取り組むと集中して座る練習になります

姿勢が維持できることは、体幹がしっかりしているということです。集中するという力は、話し手の情報をうまく受け取るのに必要な力です。

達成感が得られやすく楽しい活動です

パズル、アイロンビーズなど手先の運動とする活動は、ゴール（完成形）が分かっているので、見通しが立ちやすく、できた喜びを感じやすい教材です。



ものを上手に使うためには、

指先の動かし方を頭で考えて（第4段階）→手元をよく見て（第3段階）→姿勢を保ち続けながら（第1段階）→左右の手を操作する（第2段階）ことが必要になります。第1段階の姿勢の保持ができることは、動きの土台となります。姿勢が安定しているから、手先がうまく使え、目や口がうまく使えます。どこに課題が残っているかを見ながら、具体的な支援をし、発音のスムーズさにもつなげていきたいと思います。

握る・支える・固定する

つまむ・動かす・操作する

「ことばの教室」では、縄跳び、マット運動などで握る・支える・固定する手の動きを、ペグボードやお箸ゲーム・ビーズ遊びなどで、つまむ・動かす・操作する手の動きを鍛えるなどしています。

「つまむ」という動作ができるようになると、発音が見られるというように、手の動きの発達とことばの発達は密接につながっています。老化防止にもなるそうです。

参考文献:発達教育2022・2月号「手を使おう~その意味と発達を促す支援~」 神奈川県立保健福祉大学 笹田 哲